

令和5年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

資料編

令和6年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

令和5年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書 資料編

【目次】

I	1年間の活動実績	1
1.	授業評価実施	1
	令和5年度前期「学生による授業評価」実施結果	1
	令和5年度後期「学生による授業評価」実施結果	2
	令和5年度「教職大学院実習科目の授業評価」実施結果	3
2.	ベストクラスの選定、公表及び授業公開	4
	ベストクラス選定結果一覧（令和4年度開講科目）	5
	令和5年度（前期）授業公開一覧（令和4年度ベストクラス選定科目）	6
	令和5年度（後期）授業公開一覧（令和5年度ベストクラス選定科目）	7
	授業公開アンケート集計結果	8
3.	学生・教職員FD活動交流会の実施	15
	学生・教職員FD活動交流会実施結果	15
	学生FDパートナー募集ポスター	23
4.	いつでもどこでもFD	24
	いつでもどこでもFD報告書	24
II	資料	25
1.	本学におけるFDの定義について	25
2.	兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み	26
3.	国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程	27
4.	授業公開の実施に関する申合せ	30
5.	本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図	31
6.	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(令和5年度)	32

1. 授業評価実施

【令和5年度 前期「学生による授業評価」実施結果】

1. 実施期間

7月20日（木）～10月6日（金）まで

2. 実施方法

（1）Web方式

（2）授業評価の実施手順は、次のとおり。

- ・授業の終盤等相応の機会に、授業担当教員が、学生に授業評価への回答を呼びかける。
- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答する。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課の委託業者からメールにて行う。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を、システム上で随時確認することができる。
- ・システムには、各学期の回答が蓄積されていくため、学生はいつでも過去の回答を参照することができる。

（3）次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は、学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・授業評価の結果が、成績に影響することはないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・複数の教員で分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

3. 実施結果

	令和5年度 (7/20～10/6)	【参考】 令和4年度 (7/21～9/30)
対象科目数（A）	434	446
履修者数（B）	10,477	10,922
回答者数（C）	6,454	6,484
回答率（(C) ÷ (B)）	62 %	59 %

【令和5年度 後期「学生による授業評価」実施結果】

1. 実施期間

12月22日（金）～3月22（金）まで

2. 実施方法

（1）Web方式

（2）授業評価の実施手順は、次のとおり。

- ・授業の終盤等相応の機会に、授業担当教員が、学生に授業評価への回答を呼びかける。
- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答する。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課の委託業者からメールにて行う。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を、システム上で随時確認することができる。
- ・システムには、各学期の回答が蓄積されていくため、学生はいつでも過去の回答を参照することができる。

（3）次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は、学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・授業評価の結果が、成績に影響することはないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・複数の教員で分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

3. 実施結果

	令和5年度 (12/22～3/22)	【参考】 令和4年度 (12/23～3/23)
対象科目数（A）	426	421
履修者数（B）	10,293	10,546
回答者数（C）	4,574	4,950
回答率（(C) ÷ (B)）	44 %	47 %

【令和5年度 「教職大学院実習科目の授業評価」実施結果】

1. 実施期間

1月26日（金）～3月22日（金）まで

2. 実施方法

(1) Webフォームによるアンケート方式

(2) 教育実践高度化専攻の学生を対象にMicrosoft Formsのウェブアンケート形式により実施する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は学生の実習への取組や理解度を把握し、実習の改善を行うために実施するものであること。
- ・回答は一括で統計的に処理され、回答が成績に影響することは全くないので、実習に参加して感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、コースにフィードバックし、実習科目の改善に活かし、公表（学内限定）する。

4. 実施結果

	令和5年度 (1/26～3/22)	【参考】 令和4年度 (1/19～3/10)
対象科目数（A）	25	27
履修者数（B）	163	166
回答者数（C）	64	64
回答率（(C) ÷ (B)）	39 %	39 %

2. ベストクラスの選定、公表及び授業公開

●ベストクラスの選定については、令和4年度に開講された授業科目を対象に、学生・教職員FD活動交流会での選定及びFD推進委員会での審議を経て、12科目のベストクラスを決定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が3.5以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに12科目程度に絞り込んだ。その後、学生・教職員FD活動交流会のメンバーが、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的にベストクラスを決定した。

また、決定したベストクラスについては、12月開催の研究科教授会で共有するとともに、FD活動に関するウェブサイトを選定理由書を添えて公表した。

●「ベストクラス」という概念について

「ベストティーチャー賞」なら、すでにいくつもの大学が制度として導入しているが、本学は、「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」である。なぜ「ベストティーチャー」でないのか、そして、なぜ「賞」でないのか。ここに、「ベストクラス」という概念に込められたユニークな企図がある。

なぜ「ベストティーチャー」でないのか。授業は教員の努力だけでよいものにはならない。教員のみならず、学生の高い参加意識があってはじめてよくなる。そうだとしたら、授業を担当する教員にのみ焦点があてられる「ベストティーチャー」という表現はふさわしくない。

なぜ「賞」でないのか。「ベストクラス」は、優れた授業のモデルや規準を定め、それにあてはまるものを選ぶのではない。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずであり、それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招きかねない。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性がある。このように考えたとき、「賞」はなじまない。

●「ベストクラス」の選定

「ベストクラス」の選定にあたっては、学生と教職員がFDについて公式に協議する「学生・教職員FD活動交流会」が大きな役割を果たしている。

選定の流れは、次の通りである。まず、前年度の授業評価結果の自由記述を検討して候補となる授業科目を選ぶ。つぎに、「学生・教職員FD活動交流会」のメンバーが、授業担当教員と受講者の双方にインタビューを行い、選定理由書を作成する。そして、それをFD推進委員会で議論して最終的に選定するのである。

この過程では、学生と教職員が協働して作業にあたる。よい授業とはなにか、率直な意見交換が行われ、学生にとっても教職員にとっても、授業について思考する刺激的で貴重な機会となっている。

●「ベストクラス」の目的

本学の教育の質の向上のため、よい授業を教職員と学生が共有することにある。選ばれた授業科目のそれぞれにある「持ち味」を共有していただければ幸いである。

●ベストクラス選定科目の授業公開

今年度は、前期に令和4年度ベストクラス選定科目から3科目、後期に令和5年度ベストクラス選定科目から1科目の授業公開を行い、教員間の相互研修の場を設けた。

ベストクラス選定結果一覧（令和４年度開講科目）

令和５年１１月７日 第２回ＦＤ推進委員会

課程	科目名称	標準 履修年次	科目区分	R４年度 受講者数	R４年度 開設状況
学部	文学と読解	1	教養科目群／社会課題探究科目	23	前期 水１
	英語コミュニケーションⅠ（③クラス）	1	教養科目群／表現コミュニケーション科目	30	前期 月４
	グローバルスタディーズⅡ	1～4	教養科目群／グローバルスタディーズ科目	17	後期 木５
	教育方法論	2	教職キャリア科目群／教職支援科目	206	後期 火３
大学院 （修士）	コーディネート概論（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育の理論 と実践を学ぶ科目群	52	前期 木３
	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション （昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育を多面的 に理解する科目群	17	前期 木２
	教職員のストレスマネジメント（夜間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／専門領域科目群	25	後期 水７
	コーディネート研究（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育の理論 と実践を学ぶ科目群	38	後期 月２
大学院 （専門職）	初等音楽科教育法（大学院クラス）	1	教育実践・リフレクション科目群／初等教科 指導法科目【学部開講科目】	14	前期 金１
	教員のための学校組織マネジメントの実践演習（昼間①ク ラス）	1	共通基礎科目	36	前期 月１
	生徒指導の学校体制と教育委員会の危機管理（夜間クラ ス）	1	共通基礎科目（教育政策リーダーコース）	8	後期 時間外
	教育行政リーダーシップ特論演習Ⅱ（理念浸透）（夜間ク ラス）	1・2	専門科目（教育政策リーダーコース）	20	通年 時間外

令和5年度（前期）授業公開一覧（令和4年度ベストクラス選定科目）

課程	科目名称	授業形態	令和3年度 担当教員 下線は非常勤講師 *は退職された教員	履修 年次	科目区分	令和5年度			
						受講 者数 (人)	教室 (実施方法)	開講状況	授業公開 日時 [担当教員]
学部	初等体育（②クラス）	講・演	森田 啓之 西岡 伸紀*	1	教育実践・リ フレクション 科目群／初等 教科内容科目	85	共通講義棟 106	前期 月2	6月19日（月） 2限 [森田 啓之]
大学院 （修士）	特別支援教育リー ダーのための創発的 コミュニケーション	講・演	宇野 宏幸 岡村 章司 石橋由紀子	1・2	専攻科目／専 門科目／特別 支援教育を多 面的に理解す る科目群	22	共通講義棟 204	前期 木2	6月15日（木） 2限 [宇野 宏幸]
大学院 （専門職）	包括的児童生徒支援 に関する事例研究 （夜間クラス）	講・演	松本 剛 隈元みちる 森本 哲介 <u>山本 真也</u>	1	共通基礎科目	24	オンライン	前期 木7.一部 集中	6月8日（木） 7限 [隈元みちる]

令和5年度（後期）授業公開一覧（令和5年度ベストクラス選定科目）

課程	科目名称	授業形態	令和5年度 担当教員	標準 履修 年次	科目区分	令和5年度				備考
						受講 者数 (人)	教室 (実施方法)	開講状況	授業公開日時 [担当教員]	
学部	グローバルスタディーズⅡ	講・演	須田 康之 小田 俊明 大関 達也 菅井 三実 石倉 健二 喜多村明里 坂口 真康	1～4	教養科目群／グ ローバルスタ ディーズ科目	8	＜対面会場＞ 共通講義棟102	後期 木5	1月25日（木） 5限 [石倉 健二]	ゲストスピーカーとし て、JICA海外協力隊で 活躍された織田 芳孝 氏 を招聘します。
							＜オンライン＞ Zoom ※		2月 1日（木） 5限 [石倉 健二]	モンゴル国立教育大学よ り、教員2名と学生1名 を招聘します（通訳あ り）。
							＜対面会場＞ 共通講義棟102			

授業公開アンケート集計結果 (包括的児童生徒支援に関する事例研究)

1. 実施状況

日 時：令和5年6月8日（木）20：10～21：40

場 所：オンライン（Zoom）

参加者数：5名（教員4名 事務職員1名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	4人	0人
②参考になった	0人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ①とくにグループディスカッションの導入の流れが勉強になりました。
- ②教員の協力の仕方や事前に資料を渡して学習を促し、実際の授業では、Zoomのブレイクアウトルームを用いての意見交換などの授業構成が参考になった。
- ③オンラインのメリットが十分に活かされた授業だと思いました。その意味で、たいへん参考になりました。
- ④反転授業の形式、また、複数の教員が参加しているチームティーチングのような形の授業を初めて体験することができ、ありがたかったです。また、授業後に、参観者との意見交換の場で、受講者へのフィードバックの方法等についても具体的に例示いただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

授業公開アンケート集計結果 (特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション)

1. 実施状況

日 時：令和5年6月15日（木） 10：40～12：10

場 所：共通講義棟204

参加者数：8名（教員4名 事務職員4名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	4人	0人
②参考になった	0人	1人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ①自身の授業改善につなげたい思いで参加させていただきました。まず、授業内容（デザイン思考）が大変興味深かったです。学生の方にとっても取り組みやすい問いの設定となっており、アイデアの交流が有効に働いていると感じました。授業の進め方についても、タイムコントロールやアクティブラーニングのすすめ方、教員のファシリテーションの方法等、多くの学びがありました。
- ②・リーダーのための創発的コミュニケーションを実践的に学ぶための理論的説明と実践での活用に向けての授業構成が参考となった。デザイン思考や創発の活用が参考になった。
・ベストクラス選定理由書で、本科目を川柳にまとめられた部分が興味深く、学生FDパートナーも創発的になっていた。
- ③授業で伝えたいことはシンプルで、この伝えたいことを対話により、丁寧に学習する流れ。＝授業の構成

【参考になった】

- ①日々、コミュニケーションは大切だと感じていたが、相手のニーズをしっかりと考えた上で返事ができていないことに気付いた。相手の真のニーズが何なのかを考えて返事ができるようになりたいと思った。

3. 授業公開についての意見や要望等 （原文どおり）

- ①特にアクティブラーニングの方法については、他の先生方の講義から学ぶ機会があると大変ありがたいです。今回は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- ②よい機会をありがとうございました。
- ③また参加したいと思った。先生と学生の距離が近く、学生が熱心に授業に参加している姿が印象的だった。

授業公開アンケート集計結果 (初等体育)

1. 実施状況

日 時：令和5年6月19日（月） 10：40～12：10

場 所：共通講義棟106

参加者数：5名（教員1名 事務職員4名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	1人	3人
②参考になった	0人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ①具体的でわかりやすい内容のなかに、深く考えるべき抽象的な論点がうまく埋め込まれている授業のように思いました。その意味でもとても参考になりました。
- ②「人に関する興味・関心、パフォーマンス、モノマネ、威光作用、共感作用、苦手も見せる、子ども理解、正しい見立て・処方、長短を冷静に分析する、批判的に、1か月で能力は身に付かない」など、印象に残る・共感できる言葉を、将来教師を目指している学生に対してたくさん伝えていたため。さらに、受講していた学生は多少の私語があったものの、授業の雰囲気はとてもよく学生も森田先生も言葉を真摯に受け止めていたように感じた。教採対策講座の内容としても、活用できそうに思えました。
- ③体育に関する内容だけでなく、「教採に向けて、今のうちからどのように取り組んでいくと良いか」また、「これからの4年間をどのように学んでいくと良いか」等、大学においてどのように学びを進めていくかを、知ることができる授業であった。また、様々な指導法において、その良いところだけに目を向けるのではなく悪いところを客観的に判断していくこと、そして常に学び続けること等、教師として大切なことをしっかりと伝えられていた点が、印象的であった。受講していた1年生にとって、今後の4年間の学びを助ける授業であったと感じ、優れた授業とは何か考えるための参考となった。

- ④大講義室での講義でありながらポイントごとで学生に話し合いをさせて回答させる等、学生が聞くだけでなく考えさせる工夫がされていたのが良かったです。また、レジュメだけでなく、様々な資料や映像も活用し、具体的な事例を扱いながら、授業を展開されていたので、話が頭に入ってきてやすく理解しやすかったです。さらに森田教授が体や目線を動かしながら全方向の学生に向けて話され、時には動きを実演して説明する等、学生が話を聞きたくなるような講義をされており、それを受けて学生も活発な話し合いを行う等、一体感のある授業になっていたのがとても良かったです。

3. 授業公開についての意見や要望等 (原文どおり)

- ①非常にいい内容の授業をされているのに、参観者が少ないのはもったいないように思われる。参観はリモート、アンケートは forms の活用をしていただきたい。準ベストクラスの授業も聴講してみたいです。附属学校教員にも、視聴していただける仕組みがあれば、参考になると思います。ありがとうございました。
- ②良い内容の授業を、多くの教職員が目にすることができる機会があるのはとても良いことだと思います。より多くの方が見に来るようになると更に良いと思いました。

授業公開アンケート集計結果 (グローバルスタディーズⅡ)

1. 実施状況

日 時：令和6年1月25日（木） 16：30～18：00

場 所：共通講義棟102

参加者数：5名（教員3名 事務職員2名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	3人	1人
②参考になった	0人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ①JICAでの活動をインドネシアで行われた方の経験に基づくお話で、他には得られない情報が得られた。多様性のある中でどのようにどのようにすれば共に暮らしていけるかのヒントがあった。言語もシンプルな構造であることなど興味深かった。
- ②実際に現地にて活動された方の経験に基づいたお話は、学生の学びに繋がったように思いました。石倉先生が「学生はマイクを渡すとちゃんとしゃべる」とおっしゃっていたことが印象的で、たしかに学生からのコメントや質問には大切な論点が含まれているように思われましたし、今後、自分の授業で取り入れたいと思いました。ありがとうございました。
- ③充実した資料を準備していただきありがとうございます。講義も興味を持って聞くことができました。
- ④JICAで活動された方から、直接活動された経験を伺うことができ、興味深い時間となりました。受講生へ頻繁にマイクを渡していく授業スタイルにより、質疑応答や意見交換が活発に行われていたように感じました。

授業公開アンケート集計結果 (グローバルスタディーズⅡ)

1. 実施状況

日 時：令和6年2月1日（木）16：30～18：00

場 所：共通講義棟102

参加者数：5名（教員2名 事務職員3名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	2人	2人
②参考になった	0人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ①モンゴル教育大学からのお客様をお迎えし、とても楽しい、有意意義な授業になったと思います。
 - ②モンゴルの首都の学校では同じ建物を使い、午前は小学校、午後は中学校・高校のように時間で分けて教えていることや、かつてはロシアとほとんど同じだったモンゴルの教育方針も、2000年代から変わってきており、現在も変化の最中にあるということなど、モンゴルの教育の実際について、モンゴルからいらっしゃった先生や、留学生から直接お話を伺うことにより、自分が今まで日本で受けてきた教育を相対化して捉え直すことができたと感じたため。
 - ③学生に何度もマイクを渡すことで、質問しやすい雰囲気作りができていたように感じました。モンゴルの方から直接お話を聞くことで、生活のスタイルや街の状況等、実際の様子を知ることができ、とても興味深い時間となりました。
 - ④学生にとって、モンゴル国立教育大学の方々から、モンゴルの教育事情について、直接、話をうかがえる貴重な機会になったと思われます。
- 授業には、大学院生の方々も参加されており、そのこともあって、活発な質疑が行われていました。学部生と大学院生が一緒に受講できる授業の仕組みがあってよいのではないかと思います。

3. 学生・教職員FD活動交流会の実施

第1回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和5年5月31日（水）14時50分～16時20分

総合研究棟3階 大会議室

《会議形式》 対面形式によるミーティング

《参加者》	39名	（内訳）	大学院学生	20名
			学部学生	8名
			教員	8名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. 学生FDパートナー任命証交付式

座長から、学生FDパートナーの任命証交付式にかかる説明が行われ、引き続き、学部及び大学院の代表者1名に対して、任命証の交付が行われた。次いで、代表者以外の方は、机上の任命証について確認いただきたい旨、説明が行われた。

2. 学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスについて

座長から、資料1-1～-3、参考1-1、-2に基づき、学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスについて説明が行われた。

3. ベストクラスの選定について

座長から、資料2-1～-3、参考2に基づき、ベストクラスの選定について説明が行われた。

4. ベストクラス選定にかかる班分け及び自己紹介について

座長から、資料3-1、-2に基づき、今後、選定作業を行っていただく班について説明が行われた。

5. 選定作業

座長から、選定作業に先立ち、以下のアナウンスが行われた。

- ・選定作業は、次回も引き続き行うこと。次回は各班から「参考3 ベストクラス候補選定結果報告書」の発表を行っていただく予定であること。
- ・シラバスを机上に置いているため、適宜ご参照いただきたいこと。

引き続き、資料4-1～8に基づき、選定作業が行われた。

6. 次回の交流会は6月下旬頃の開催を予定しており、別途、日程調整のうえ開催する。

第2回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和5年6月28日（水）16時30分～18時00分

総合研究棟3階 大会議室

《会議形式》 対面形式によるミーティング

《参加者》	38名	(内訳)	大学院学生	19名
			学部学生	8名
			教員	8名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. ベストクラスの選定について

座長から、資料1-1～-3、参考1に基づき、ベストクラスの選定について、改めて説明が行われた。

2. ベストクラス選定にかかる班分け及び自己紹介等について

座長から、資料2-1、-2に基づき、今後、選定作業を行っていただく班について、改めて説明が行われた。

3. 選定作業

座長から、選定作業に先立ち、以下のアナウンスが行われた。

- ・選定した授業科目については、「資料4 ベストクラス候補選定結果報告書」に記入いただきたいこと。
- ・選定作業後は、各班から「資料4 ベストクラス候補選定結果報告書」の発表を行っていただくこと。
- ・前方にシラバスを置いているため、適宜ご参照いただきたいこと。

引き続き、資料3-1～-8に基づき、選定作業が行われた。

4. 情報共有

各班から、ベストクラス候補について発表が行われた。

5. 今後のスケジュール

座長から、資料1-3、参考1に基づき、今後のスケジュールについて確認が行われた。

- ・ 7月～9月中にインタビューを実施する。
- ・ 10月10日（火）までに「参考2-2 ベストクラス候補選定理由書」を作成のうえ、学務課教務企画チームへ提出する。
- ・ 次回の交流会は10月25日（水）又は11月1日（水）の開催を予定している。

第3回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和5年10月25日（水）16時30分～18時00分

総合研究棟3階 大会議室

《会議形式》 対面形式によるミーティング

《参加者》	28名	（内訳）	大学院学生	12名
			学部学生	7名
			教員	7名
			事務職員	2名

《実施内容》

1. ベストクラスの選定について

座長から、資料1-1～-3、参考1に基づき、ベストクラスの選定について、改めて説明が行われた。

2. ベストクラス候補の選定

各班からのベストクラス候補選定理由書の説明に先立ち、各班で打合せが行われた。

引き続き、資料2-1、-2に基づき、各班から説明が行われた。

次いで、座長から、学生・教職員FD活動交流会案としてベストクラス候補を確定し、FD推進委員会に附議することの説明が行われ、了承された。なお、ベストクラス候補選定理由書の作成者及び選定理由の表記については統一すること、また、必要に応じて、各班へ問い合わせを行うことについて、併せて説明が行われた。

3. ベストクラス選定過程等について意見交換

座長から、ベストクラス選定過程等について意見がないか、確認が行われた。引き続き、学生・教職員FD活動交流会の終了後に、アンケートフォームのURLを通知するため、意見がある場合は、回答していただくよう依頼が行われた。

4. 今後のスケジュール

次回の交流会は12月下旬頃の開催を予定している。

第4回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和6年2月28日（水）16時30分～17時35分

《会議形式》 Teams により開催

《参加者》	23名	(内訳)	大学院学生	10名
			学部学生	2名
			教員	8名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. 学生による授業評価にかかる名称変更について

座長から、画面共有資料、資料1に基づき、学生による授業評価にかかる名称変更について説明が行われた後、意見交換が行われた。

<主な意見>

- ・資料1に記載の「学習としての評価」という考え方に賛同する。ベストクラスの選定にあたり教員と受講生にインタビューをした際、教員と受講生の間に入っているような感覚があった。教員と学生との間で、やりとりがなされれば学びが深まるのではないかな。
- ・「アンケート」より「評価」という名称のほうが、しっかりと回答するのではないかな。名称を変更することよりも、授業評価をなんのためにやっているかといった意義を説明することに力を入れたほうがよいのではないかな。
- ・学生に対して、授業評価を実施しているメリットを理解してもらえるような表記をしたほうがよいのではないかな。授業評価の選択肢について、4件法ではなく、0～10まで等細かく評価ができるようにしてもよいのではないかな。
- ・ストレートの学生は、授業評価をした経験がないため、評価をするということに戸惑いがあるようであった。本学がどのような授業を目指しているのか、そしてその考えを元に授業評価をするといった、評価の観点となるものがあるとよいのではないかな。

- ・学期末にまとめて授業評価を行うのは、学生にとって負担が大きいのではないかと。授業の中間に実施したり、授業を分けて実施したりすることで学生の負担を軽減できると同時に、教員にとっても授業の途中であれば改善に繋げやすいのではないかと。授業評価の名称については、学生がどれだけ学んだかを評価するという表現にするとよいのではないかと。

2. 学生・教職員FD活動交流会に参加した感想・意見等について

座長から、画面共有資料に基づき、以下の点について、意見交換が行われた。

①FDパートナーとして活動に参加してみて思ったこと

(よかったこと、学びになったこと、取り入れてほしいこと、改善したほうがよいことなど)

②来年度の交流会で論点にしてはどうかと思うこと

③本学の教育全般について思うこと

<主な意見>

- ・インタビューを通して先生方の思いを聞くことができ、自分自身の学びになった。ベストクラスの選定については、自由記述の内容からしか判断が出来なかった。選定にあたっての観点が明確であれば、より本学の教育内容や目指しているところに沿ったベストクラスを選定することができるのではないかと。
- ・授業評価が、ベストクラスの選定で活用されていることを知ることができて良かった。インタビューは緊張したが、先生方と受講生から、どのような気持ちで授業に臨んでいるのか、その思いを知ることができ、自分自身の学びになった。
- ・FD活動に参加して、先生方や学生さん達と交流する機会を多く持つことができ、有意義であった。ベストクラスの選定の際に、授業によっては回答者数が少ないものもあったため、回答者数を増やす取り組みも必要であると感じた。
- ・FD活動を通して、大学全体の授業をより良くしていこうという取り組みに参加できたことは、自分自身の学びになった。
- ・現在修士2年生であるが、1年生の頃はこの活動のことを知らなかった。教員と学生が一緒になって、よりよい授業を作っていこうとするこの活動のことを、もっと他の学生にも知ってもらいたい。広報に力を入れるとよいのではないかと。また、多くのベストクラスがリストアップされていたが、自分自身、受講していない授業も多々あったため、一度でも良いので見に行ってみたいと思った。学生がリストアップされているベストクラスを見に行くことができる期間があれば良いのではないかと。
- ・インタビューを通して、その授業の良さを知ることができた。一方で、このような良い授業があるのだということが、学生に伝わっているのか疑問に感じた。今後は、学生にどう伝えていくのが課題ではないかと。

- ・FD活動に参加して、先生方が学生の声に真摯に耳を傾けてくれるという点が、最も印象的であった。また、実際に授業を受講しているなかで、若手の教員から、授業評価に回答するよう呼びかけがあった。若手の教員にとっては、授業評価の結果はモチベーションの一つであり、自分自身を振り返る指標になっているのだなと感じた。
- ・大学院生の自分にとって、学部生と関わることは、これまでほとんど無かったため貴重な機会であった。他にも、他コースの学生や先生方など様々な方と交流ができて良かった。ベストクラスの選定については、授業評価の回答数や自由記述の内容等、どの観点で選定するか判断するのが難しかった。一から自由に議論するところが良いところだとは思いますが、実際は難しかったように思う。
- ・ベストクラスの選定基準の一つに、教員と受講生が一緒になって授業を作っているかという内容があったかと思うが、それならば教員と受講生が共に授業を振り返って互いに評価をするという場面があって、それにより改善に繋がるということが、ベストクラスのあり方なのではないか。それを踏まえると、FD活動としては、例えば授業が全て終わってからインタビューするのではなく、評価改善の場面をインタビューする、それにより授業がどのように変わっていったか、また受講生の姿勢が変わったかといったものが取り上げられると、授業の変わっていくダイナリズムが掴めるのではないか。
- ・学部生として、現職の院生さん等、普段関わることのできない様々な方と交流ができて良かった。また、ベストクラスの選定やインタビューを通して、授業作りに対する学びも深まった。この活動をもっと皆に知ってもらい、多くの人に参加して欲しいなと思った。参加するメリットを伝えることができれば、もっと参加してくれる学生も増えるのではないか。



学生FDパートナー 募集

本学の教育について率直に語り合いませんか



ベストクラス

についてはこちら



対象学生 学部学生及び大学院学生

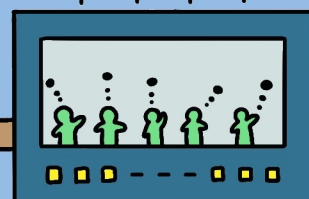
主な活動 ベストクラス候補となる授業科目の選定
学生による授業評価と評価方法の改善

活動期間 令和6年5月～令和7年3月（4回程度）

学生と教職員が
公式に議論を行う場です

- 学部生・大学院生・大学教職員等
様々な方と交流できます

FDパートナーには任命証を交付します
大学の公式な活動に参加して
教授でアピールしませんか？



ご応募はこちらから

メールでもご応募いただけます



4/26 (金) まで

2023年度 いつでもどこでもFD 報告書

学生の自主的な課外活動を推進・支援する方法についての検討会

開催日時：2023年9月20日（水） 14時30分～16時00分

開催方法：対面，自然，生活・健康棟 STEAM Lab

主 催：永田夏来

参加人数：3人（教員2人 学生1人）

本学は教員養成フラッグシップ事業として、自律した学習者を育てる教師の養成を目指したプログラムを開発しつつある。大学が開発したカリキュラムによる養成はもちろん重要であるが、学生自身が自主的に課外活動に取り組むことは、自律した学習者という趣旨に即したものであり、本学の目指す教師養成の一助となることが期待できる。本検討会では、そうした学生の自主的な課外活動を推進・支援する方法について検討することを目的とした。

まず、夏休みに自主的に課外活動を行っている学生の様子を観察・記録した。この課外活動は、子供向けの学習会やお祭りを企画から運営まで、学生が関係者と協力しながら取り組むものであった。



次に、学生の課外活動のすべてが終了した9月20日に、中心的な立場にいた学生1名を交えて、写真や動画等の記録を参照しながら、活動の振り返りを行った。積極的に企画・運営にかかわったことで充実した学びを感じられた学生もいたが、思った通りに活動ができなかったことに不満を抱く学生もいたこと、慣れない学生にとっては積極性を出すことが難しいケースがあることなどの課題が明らかになった。積極性を持って課外活動に参加するためには、事前に大学教員や仲のよい仲間などとのフィールドワークを経験しておくなど、安心できる環境の中で学外者との関係のつくり方やふるまいなどを経験させておくことの必要性が示唆された。



本学におけるFDの定義について

兵庫教育大学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

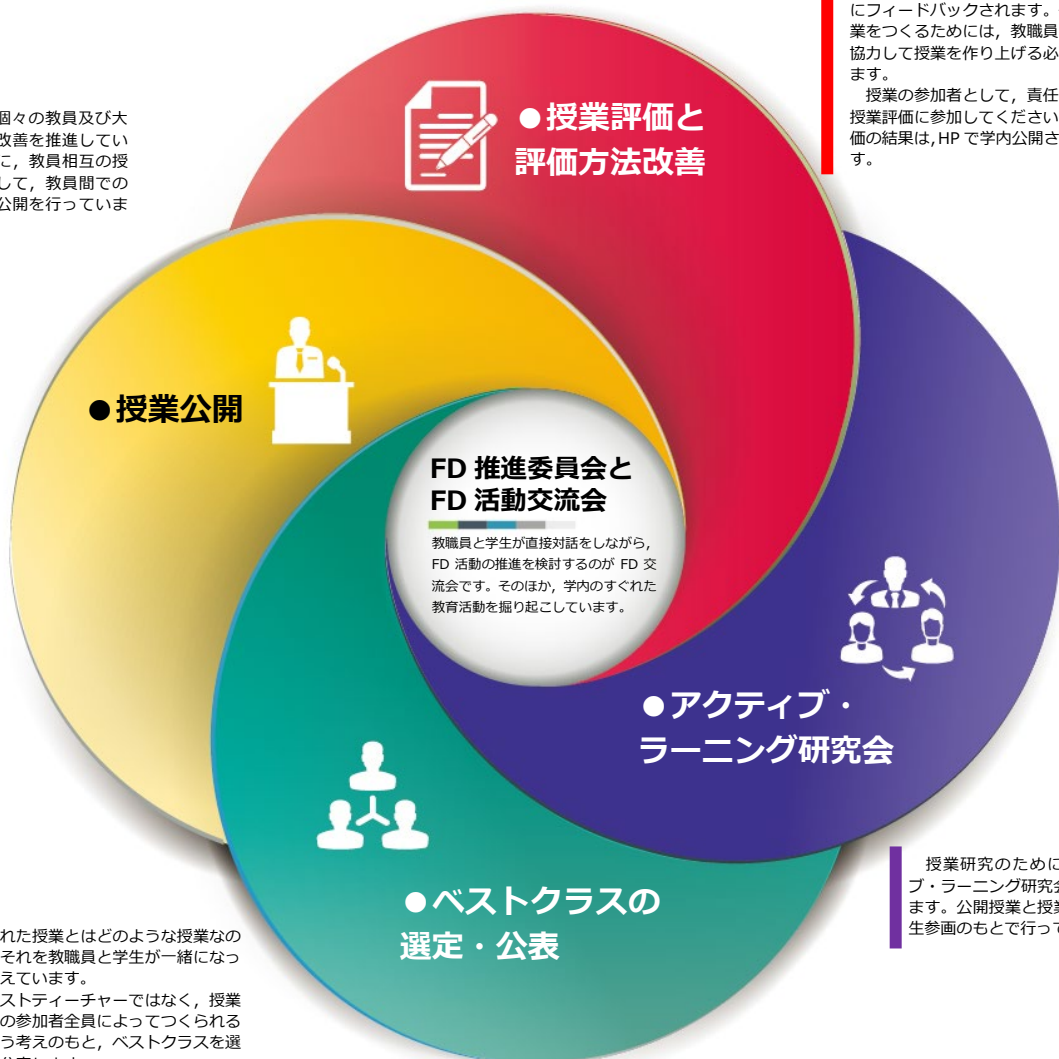
- (1) 本学のミッション及びビジョンを実現すること (What for)
- (2) 全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をFD活動と認識すること (What)
- (3) 教員と事務職員が協働し、学生の参画を推進すること (Who)
- (4) 教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、更なる改善・充実を組織的に図ること (How)

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

FD とは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。



国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

(平成 16 年 4 月 1 日規程第 17 号)

改正	平成 17 年 3 月 31 日	平成 17 年 9 月 6 日
	平成 18 年 3 月 8 日	平成 18 年 7 月 12 日
	平成 18 年 12 月 6 日	平成 19 年 3 月 14 日
	平成 20 年 1 月 16 日	平成 20 年 3 月 11 日
	平成 23 年 3 月 14 日	平成 24 年 3 月 26 日
	平成 25 年 4 月 2 日	平成 28 年 1 月 13 日
	平成 29 年 3 月 29 日	平成 29 年 6 月 30 日
	平成 31 年 2 月 12 日	令和 2 年 3 月 11 日
	令和 3 年 3 月 26 日	

(設置)

第 1 条 国立大学法人兵庫教育大学(以下「本学」という。)におけるファカルティ・ディベロップメント(教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。)の推進を図るため、国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長のうち学長が指名した者 1 人
 - (2) FD 推進担当の学長特別補佐
 - (3) 次のア、イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者
 - ア 人間発達教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 2 人
 - イ 特別支援教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 1 人
 - ウ 教育実践高度化専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 3 人
 - (4) 学長が指名した者
- 2 前項第 3 号及び第 4 号に規定する委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。
- 3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第 3 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第 1 項第 2 号に規定する学長特別補佐をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を企画し、及び実施する。

- (1) FD に係る調査・研究に関すること。
- (2) 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- (3) 教育改善に係る評価に関すること。
- (4) その他 FD に関すること。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第3号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該委員が所属する専攻の教授、准教授、講師又は助教を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月31日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成17年9月6日)

この規程は、平成17年9月6日から施行する。

附 則(平成18年3月8日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成18年7月12日)

この規程は、平成18年7月12日から施行する。

附 則(平成18年12月6日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月14日)

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第2号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則(平成20年1月16日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 11 日)

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 3 月 14 日)

- 1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行後第 2 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず平成 24 年 3 月 31 日までとする。

附 則(平成 24 年 3 月 26 日)

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 25 年 4 月 2 日)

この規程は、平成 25 年 4 月 2 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 28 年 1 月 13 日)

- 1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行後第 2 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則(平成 29 年 3 月 29 日)

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 6 月 30 日)

この規程は、平成 29 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 2 月 12 日)

- 1 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に改正前の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき特別支援教育専攻から推薦された委員である者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき同専攻から推薦された委員、教科教育実践開発専攻に所属する者として専攻から推薦された委員である者のうち、芸術系教育コースに所属する者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき人間発達教育専攻に所属する者として専攻から推薦された委員、理数系教育コースに所属する者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき教育実践高度化専攻に所属する者として専攻から推薦された委員であるとみなし、その任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず残任期間と同一の期間とする。

附 則(令和 2 年 3 月 11 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 2 年 3 月 26 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

平成 21 年 11 月 6 日
学 長 裁 定
改正 平成 26 年 6 月 2 日

授業公開の実施に関する申合せ

1 授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2 対象授業

原則として、授業は全面公開とする。ただし、授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

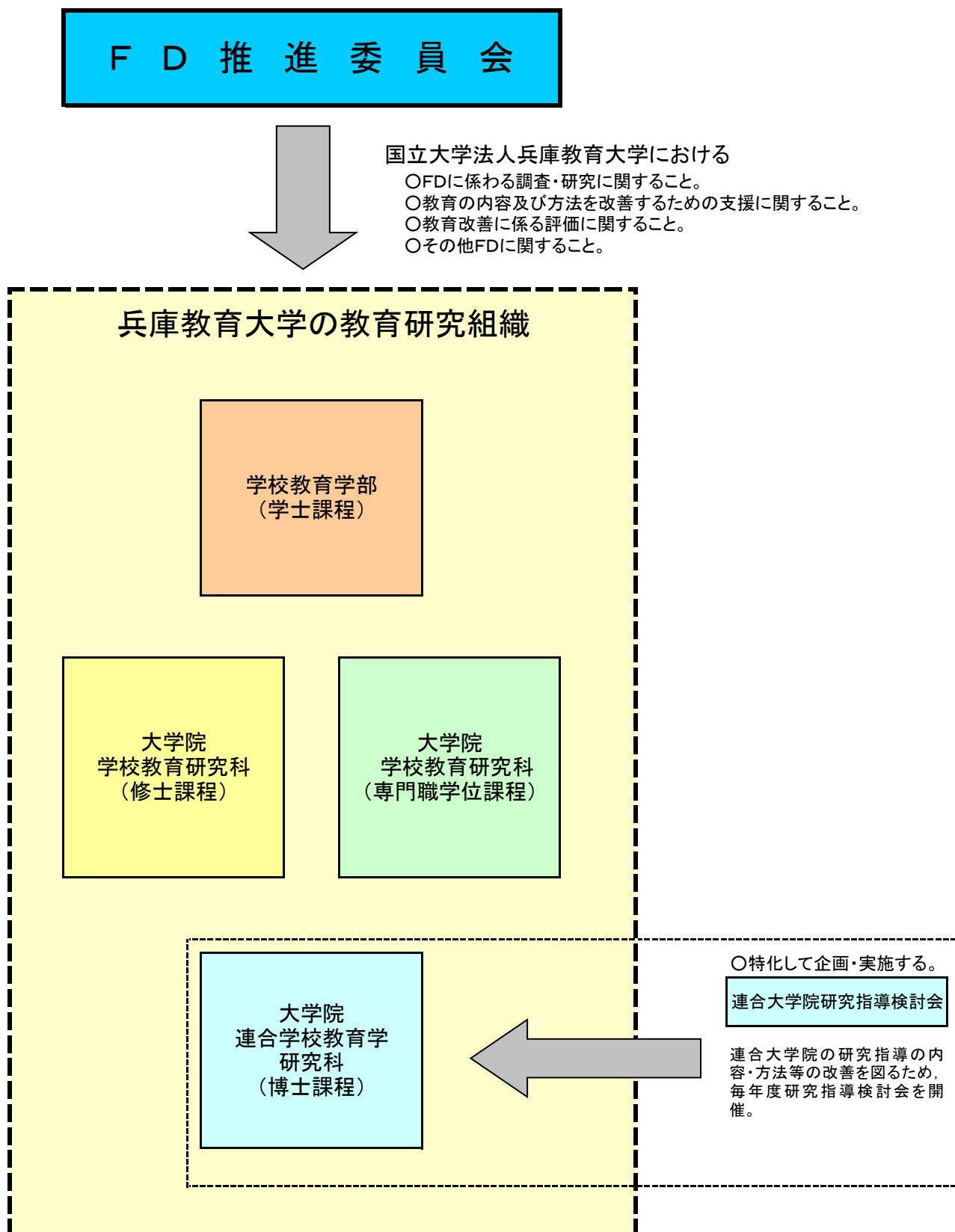
3 公開期間

各教員においては、日常的に「授業研究」を行い、授業の改善に努めているところであるが、このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため、個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合、授業公開に参加を希望する教職員は、当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし、日常の教育活動を保証するため、次の期間については公開の対象としない。

- (1) 定期試験の期間
- (2) 学期当初の期間（1～2週間）
- (3) 実地教育等に関わる期間

FD活動

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

令和5年4月1日

所 属 等	職 名	氏 名	任 期	備 考
—	副学長	須田 康之	—	第1号委員
—	学長特別補佐 (FD推進担当)	山中 一英	—	委員長 第2号委員
人間発達教育専攻 学校心理・学校健康教育・発達支援コース	准教授	藤原 和政	R4.4.1 ～R6.3.31	第3号委員
人間発達教育専攻 生活・健康・情報系教育コース	教 授	永田 智子	R5.4.1 ～R7.3.31	第3号委員
特別支援教育専攻 障害科学コース	講 師	石井 智也	R5.4.1 ～R6.3.31	第3号委員
教育実践高度化専攻 教育方法・生徒指導マネジメントコース	准教授	伊藤 博之	R5.4.1 ～R7.3.31	第3号委員
教育実践高度化専攻 理数系教科マネジメントコース	教 授	庭瀬 敬右	R4.4.1 ～R6.3.31	副委員長 第3号委員
教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別コース 学校教育コース	教 授	筒井 茂喜	R5.4.1 ～R7.3.31	第3号委員
—	副学長	吉水 裕也	R5.4.1 ～R7.3.31	第4号委員